キリスト教会組織のコンプライアンスについて

コンプライアンスとは：
「組織が法律や倫理を遵守すること」
簡単に言うならば、「悪いことをしなければいい」というだけのこと。

　企業など社会的組織においては、たった一人のコンプライアンス違反が、重大な社会的問題、不祥事を引き起こすことになりかねず、組織の存続の危機になりかねないため、その重大性を認識した社会組織においては「コンプライアンス教育」、「ハラスメント教育」、「リスク管理」等の関連教育に時間を割くようになっている。

　コンプライアンス問題、不祥事をなくすためには、何がコンプライアンス違反になるのか、ハラスメント行為になるのか、しいては、これらがどのような重大な問題となるのかを、認識するための全体への教育が必要である。

　キリスト教 カルト化問題は、他にも要因があるが、善悪の判断の歪みが起こるところに一因がある。
善悪の判断の歪みが起こると、聖書のみことばの独自解釈によって、正当化とマインドコントロールが起こり、外部に発覚する時には、大きな事件となり、聖書へのつまずきとあざけりを引き起こしてしまう。
　放置すればそのうち治まる問題ではなく、自覚して治めなくてはならない組織的社会問題である。

★ **コンプライアンス問題を引き起こすリスクは、事件や不祥事などの結果として顕在化するまでは、意識をしなければ見えないものである。**
結果として顕在化する前に、然るべき対応をし、予防していくためには、キリストの愛を根底に、意識をもってリスクを発見するアンテナを広げ、センシティビティ（感受性、感度）を高める必要がある。
重大な事件や不祥事が顕在化する以前には、
予兆があるので、予兆を発見できるように、
心を麻痺させることなく、治めていくことを心がけよう。

リスクへの感度を低下させる要因：

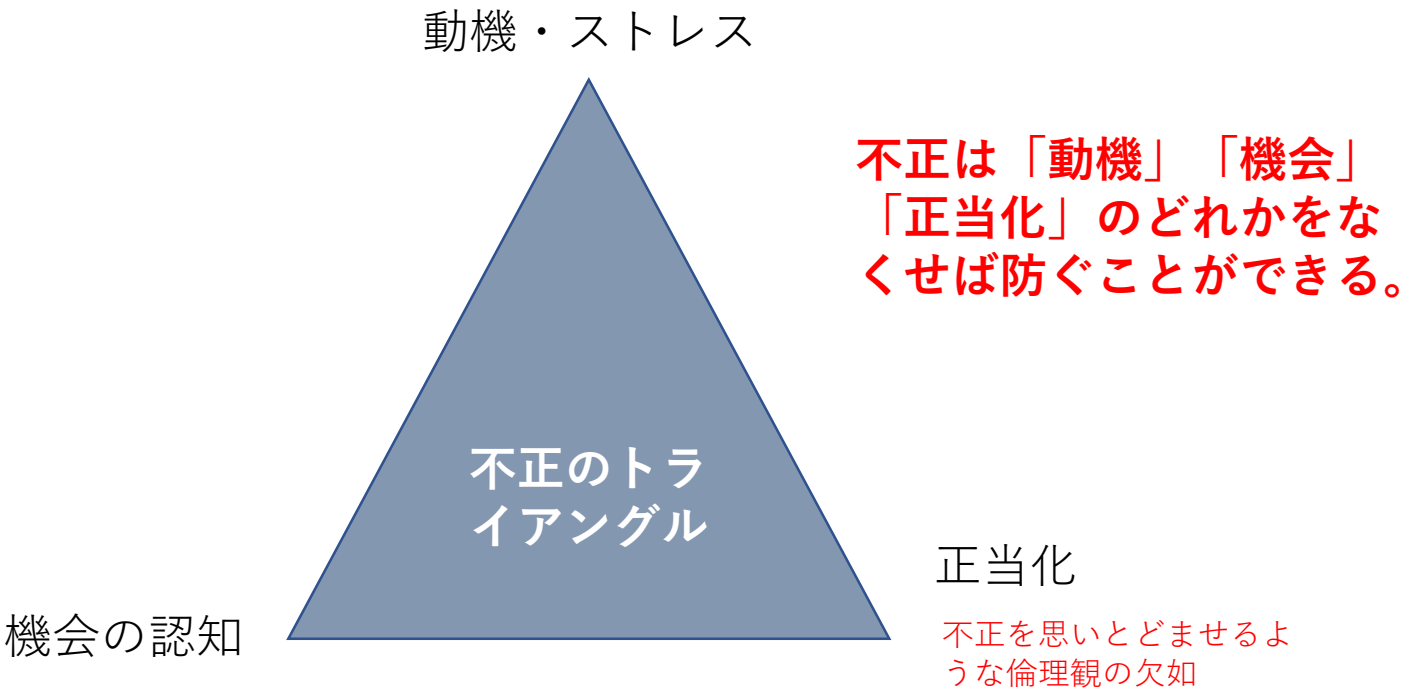
1. 組織（または指導者）への「同調」
   リスクへの感度が低下していく時に、大きな作用をする心理構造に「同調」がある。
   「同調」とは、根拠もないのに、周囲（人、集団）の意見や態度に同意し、同じ行動をとろうとする心の動きである。
   「人は自分の意志とは関係なく同調する傾向がある」

   危険な考え：「みんなそれをやってる」「他の教会もそれをやっている」

2. 権威者・指導者への「服従」
リスク感度が低下していく時のもう一つの心理構造に「服従」がある。
服従とは、立場的圧力のもとに、不本意であっても相手の指示命令に従ってしまう心の動きである。

ミルグラムの服従の実験（閉鎖的な状況における権威者の指示に従う人間の心理状況を実験）では、62.5％が権威者による非人道的な指示を遂行した。

不正が起こるメカニズム



不正は「動機」「機会」「正当化」のどれかをなくせば防ぐことができる。